



GraspPlugin Manual

[ホーム](#) > [困った！](#)

Java RTC がリモートホストから見えない！

金, 11/25/2011 - 11:19 — asahi

トラブルシューティング - OpenRTM-aist

<http://www.openrtm.org/OpenRTM-aist/html>

[/FAQ2FE38388E383A9E38396E383ABE382B7E383A5E383BCE38386E382A3E383B3E382B0.html](http://www.openrtm.org/OpenRTM-aist/html/FAQ2FE38388E383A9E38396E383ABE382B7E383A5E383BCE38386E382A3E383B3E382B0.html)

ここにいろいろなケースがありますが、とくに「Java」で「リモートホスト」からという場合、

ネットワークインターフェースが2つ以上ある <http://www.openrtm.org/OpenRTM-aist/html>

[/FAQ2FE38388E383A9E38396E383ABE382B7E383A5E383BCE38386E382A3E383B3E382B0.html#f2bc375d](http://www.openrtm.org/OpenRTM-aist/html/FAQ2FE38388E383A9E38396E383ABE382B7E383A5E383BCE38386E382A3E383B3E382B0.html#f2bc375d)

が該当する場合があります。

例として、vision ホスト(150.29.146.166)上でネームサーバとHiroNXProvider RTC を動かし、このHiroNXProvider RTC に dinobot ホスト(150.29.147.165)上の HiroNXGUI RTC から接続したい場合。

dinobot 上でEclipse のRTシステムエディタなどで確認しても、起動しているはずのvision:HiroNXProvider はゾンビ状態でしか表示されません。

これは、JavaのCORBAが vision の持つネットワークインターフェースのうちのどれを利用するかが不明瞭であるためで、vision 上のネームサーバとHiroNXProviderの両方で、それを明記する必要があります。

ネームサーバに対しては、環境変数 OMNIORB_USEHOSTNAME を設定します。

今回の場合、vision のネットワークアドレスは 150.29.146.166 でした。

(csh系)

```
% setenv OMNIORB_USEHOSTNAME 150.29.146.166
```

(bash系)

```
$ export OMNIORB_USEHOSTNAME=150.29.146.166
```

このように環境変数を設定したあと、

```
$ sudo /etc/init.d/omniorb4-nameserver restart
```

とすると、ネームサーバに環境変数の設定が反映します。

RTC に対しては、rtc.conf に一行追加して、起動し直します。

```
corba.endpoint: 150.29.146.166:
```

最後にコロンを付けるのを忘れてはいけません。

```
$ ./HiroNXProvider.py
```

(HiroNXProvider.py は Jythonスクリプト)

dinobot側のRTシステムエディタのネームサーバに 150.29.146.166 を追加し、hiro-console|host_cxt の下の HiroNXProvider0|rtc が、有効になればOKです。

[< 困った！](#)

[↑ 上位](#)

[Jython 用 RTC がインスタンス変数への代入部分でこけるときは >](#)

[印刷用ページ](#) [ログイン\(登録\)](#)してコメントを投稿

